

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2021.12.02)

文・写真：武田、山國

日時：2021(令和3)年 12月 2日(木) 9:30～15:00

気象：晴(気温 3～4℃)

活動エリア：44林班は-02

活動内容：地域環境保全(里山林保全)

参加者(会員)：猪川 誠、石原順子、内海宏一、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、武田壽夫、中川義行、中村賢三、
宮本 廣、山田真也、山 國 会員 12名

<橘始黄(和暦72候 夕バナジメキバム)>

◆橘は「みかん」、蜜柑が色づき出す頃とされる。山は3～4℃と今季最低気温。風がないのが幸い。軟弱な地盤の傾斜地、相変わらず鋸使い、左右・上下の移動、玉切り材の運搬に苦勞する。そこで、以下、前回に続き本山寺山の地層、「黒ボク土」について。

◆下は日頃見慣れた山の地面。「枕状溶岩と出会いに高槻の本山寺山へ」によると、『さらに登ると(火山灰土と腐植で形成される)黒ボク土のような真っ黒い土があった。黒ボク土は玄武岩由来の火山灰が風化した粘土から形成されるとあるので、今回は枕状溶岩の水の作用による変成岩でちょっと違うけど、最終産物の粘土は同じはずなので、本山寺山に黒ボク土があっても問題ない』(列島誕生以前の噴火物に由来?)

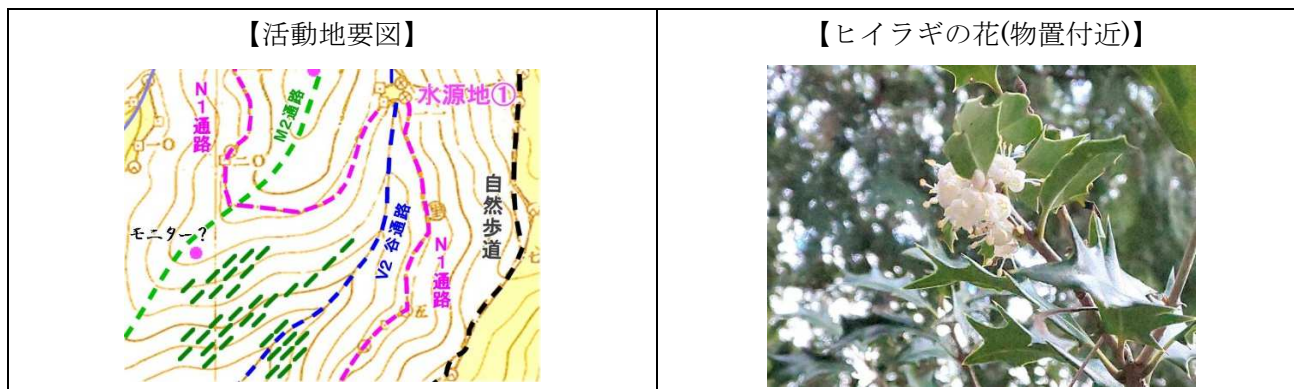


←植物の根がしっかりと入っている「本山寺山の黒ボク土」

<今日の成果>

大物はチェーンソー、鋸組は上手と下手の二手に分れ、斜面の倒木や切り離し木を玉切りし、棚積みや山道の路肩固めに運び移す。肩・腰に堪える作業だが、それでも仕上がりを「妄想」して精を出し、幅10m×距離100m=0.1haの範囲はスッキリ、身体がカタ、充実感タップリ。

<写真編①>



<写真編②>

【斜面の状況】



【棚積み位置へ運搬中】



【何とか形になった棚積み】



【斜面で棚積みの苦闘中】



【右下が今回の棚積み、左上は前回施工】



【もうすぐ Xmas(高槻 AL・PLAZA内)】

